

# 平成27年度「全国学力・学習状況調査」における 穴生 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。  
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

## 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・ 実生活において不可欠であり、常に活用できるように</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・</li></ul>

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

# 穴生 小学校「平成27年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

## 1. 教科に関する調査結果の概要

### ① 学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)結果

		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
平成25年度	本市	60.3	46.3	74.6	56.5	
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4	
平成26年度 (理科：平成24年度)	本市	69.1	52.6	76.2	55.4	59.7
	全国	72.9	55.5	78.1	58.2	60.9
平成27年度	本市	67.1	62.1	73.3	43.7	57.3
	全国	70	65.4	75.2	45	60.8

### ② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均値をやや下回っている。話すこと・聞くこと、書くことに関しては相対的にできている。 ・漢字の書き取りや文章理解に課題があり、内容をしっかりと意識しながら文章を読む習慣をつける必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・話の適切な聞き方の工夫について考え、答える問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・新聞コラムにおいて、筆者の思いが表れている部分を書き出す問題については正答率が低かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均をやや下回っている。昨年度に比べると無回答率が増加している。 ・記述式の問題に対して課題がある。、問題を把握し解答となる文章をしっかりと書く習慣をつける必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・目的や意図に応じ、記事に見出しをつける問題問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉える問題の正答率が低かった。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を5ポイントほど下回っている。昨年度に比べると、無回答率がやや高くなっている。 ・数量関係については全国平均とほとんど差がない。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・グラフに表されている事柄を読み取る問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・小数の計算、分度器を使った角度の読み取り、三角形の角度を求める問題において正答率が低かった。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均をやや下回っている。ただしマイナス1.9ポイントであり、過去3年間の中ではもっとも正答率が高かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・平行四辺形の辺の組み合わせについて考える問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・正三角形の性質や合同な三角形の性質を基に角度を求める問題において正答率が低かった。また無回答率も高かった。	

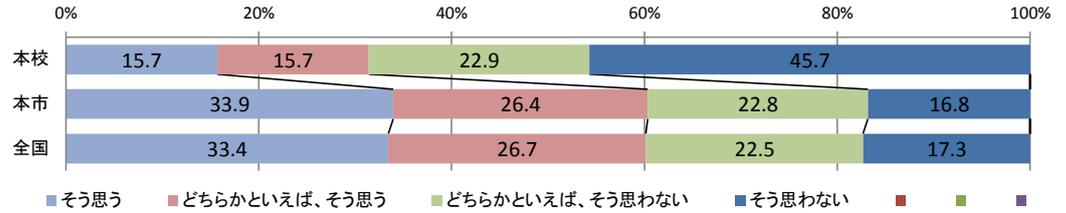
理科	全体的な傾向や特徴など	・全国平均とほぼ同等である。本市よりやや上回っている。 ・A区分物質とエネルギー分野は正答率が全国平均を上回っている。B区分地球と生命分野はやや下回っている。	全国平均正答率との比較 同じである
	よくできた問題	・電磁石の働きを利用した振り子について考える問題において正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・植物の成長と日光の関係について考える問題において正答率が低かった。	

③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号
質問事項

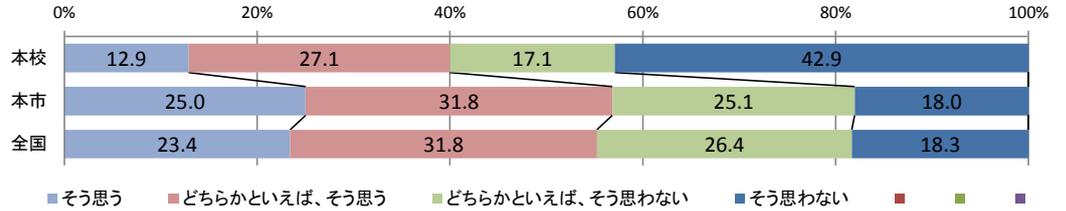
44

400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか。



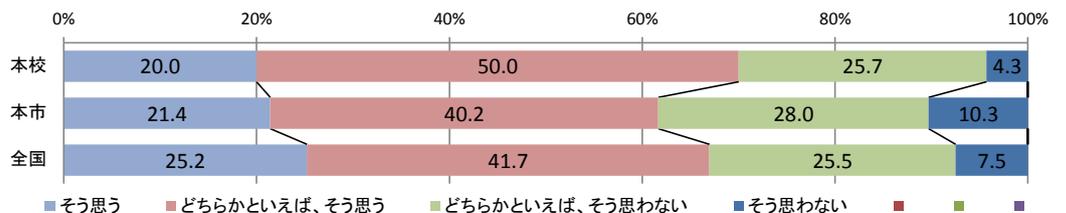
45

学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか。



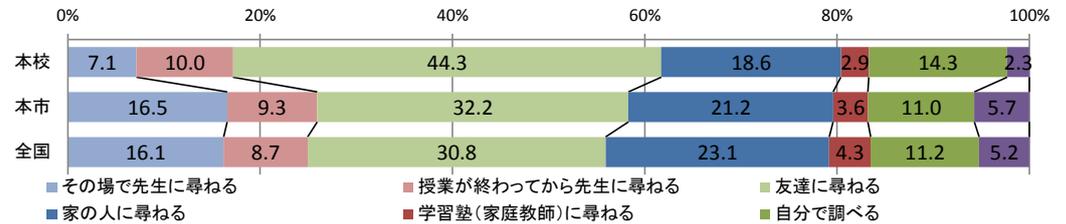
46

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。

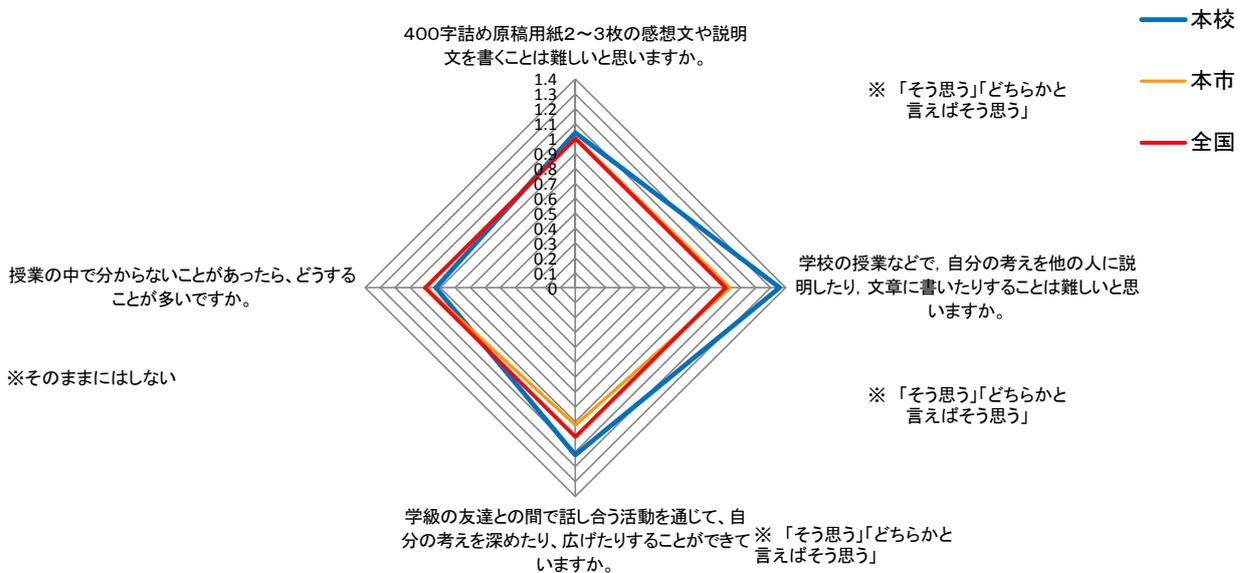


47

授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか。



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

・文章を書くことにおいては、昨年までの2年間、国語科の「書くこと」領域の研究に取り組んできた成果もあり、苦手意識をもつ児童が減ってきていることが分かる。また、自分の考えを授業中に発表する機会を取り入れることを意識して授業づくりを行った結果、発表に際しても苦手意識がなくなっている。

・話し合い活動を学習中に多く取り入れることで、その良さを実感している児童が増えている。

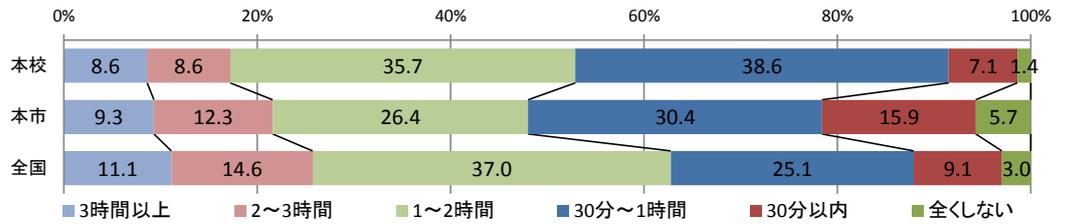
・学校の授業で分からないことを「友達に尋ねる」と答える児童が多い。逆に「先生に尋ねる」という児童が少ない。教師が授業中やその他の時間に、分からないことを確認するような時間を設定する必要がある。

## 2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

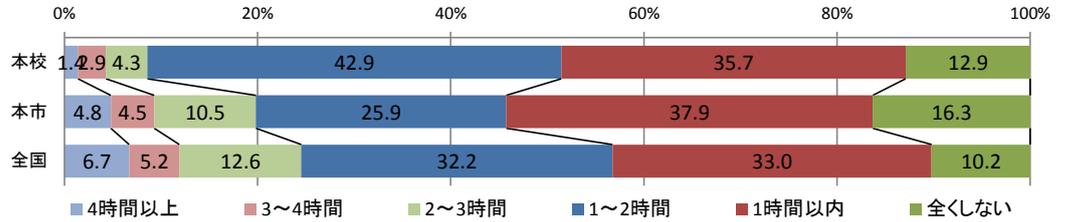
### ① 家庭学習習慣に関する調査結果

質問番号
質問事項

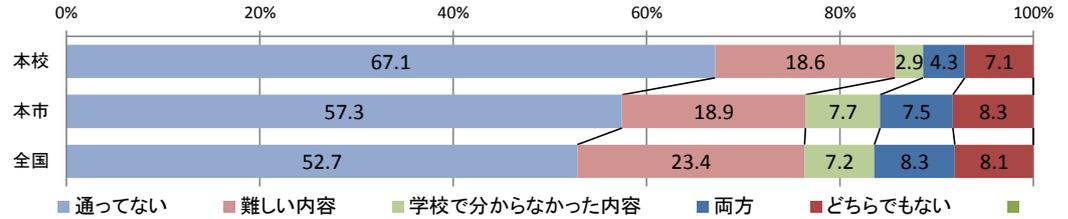
13
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含みます。)



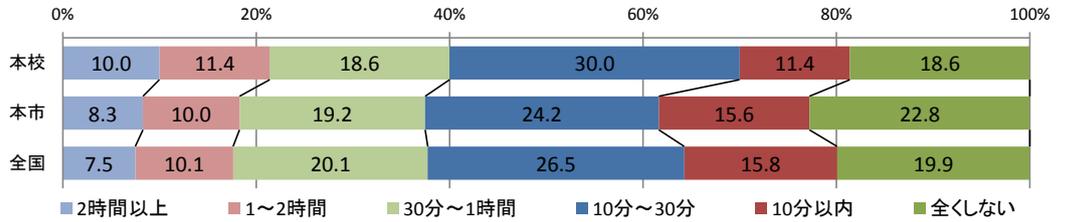
14
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含みます。)



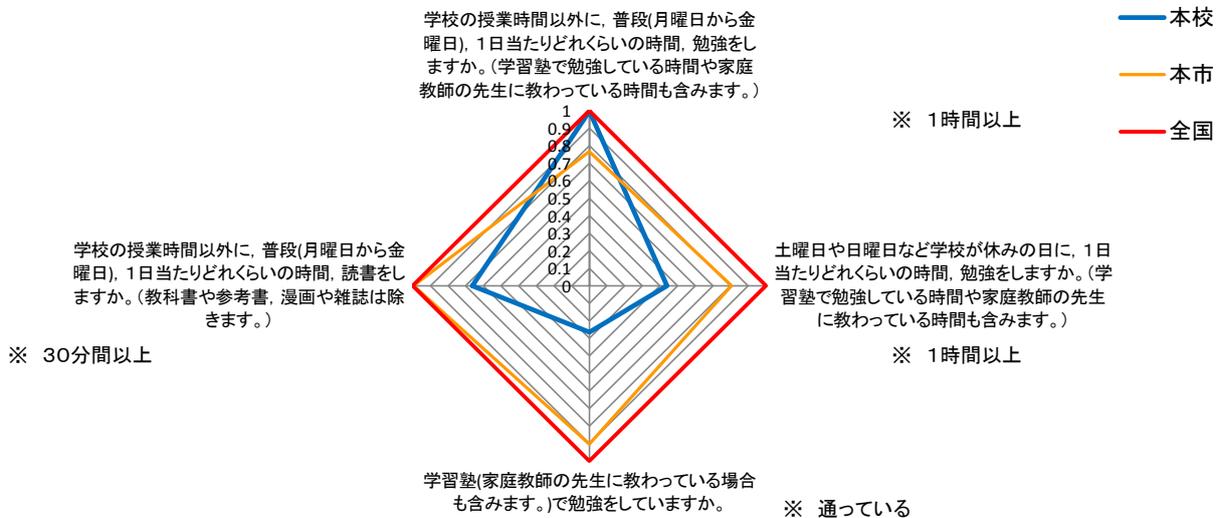
15
学習塾(家庭教師の先生に教わっている場合も含みます。)で勉強をしていますか。



16
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます)をしますか。



### ② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



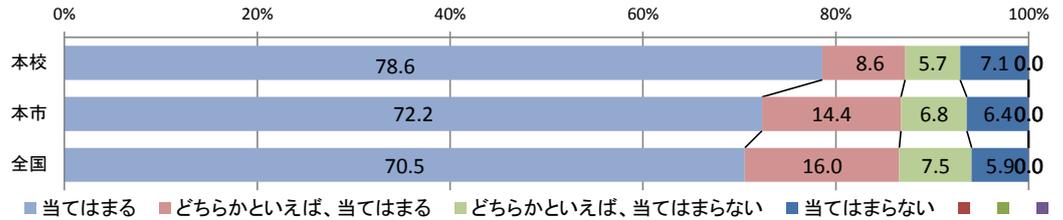
### ③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

- ・学習塾に通っている児童が非常に少ない。
- ・月～金までの学習時間が1時間以上の児童が少ない。同じく、土日の学習時間が1時間以上の児童も少ない傾向である。チャレンジハンドブック等を活用し、自分で家庭学習の計画を立てさせて取り組んでいくことが必要である。また、家庭学習に対する保護者への啓発も継続的に行い、家庭学習の習慣化を図っていく必要がある。
- ・読書に親しんでいる児童は多く、読書の時間は全国と比較しても多い。継続して読書活動の推進を行う一方、読書の質的向上を視野に入れる必要性もある。

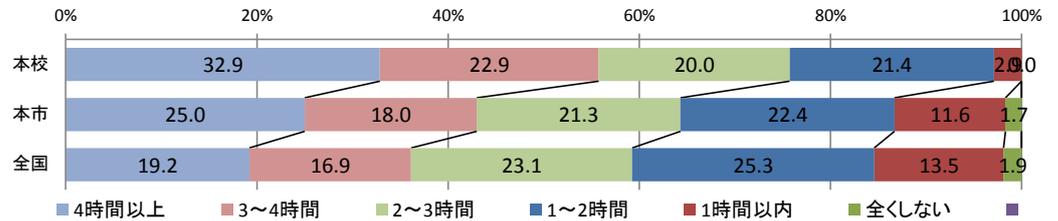
④ 生活習慣等に関する調査結果

質問番号
質問事項

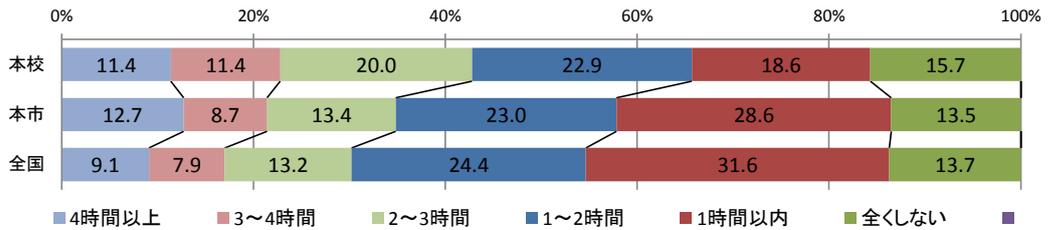
9
将来の夢や目標を持っていますか。



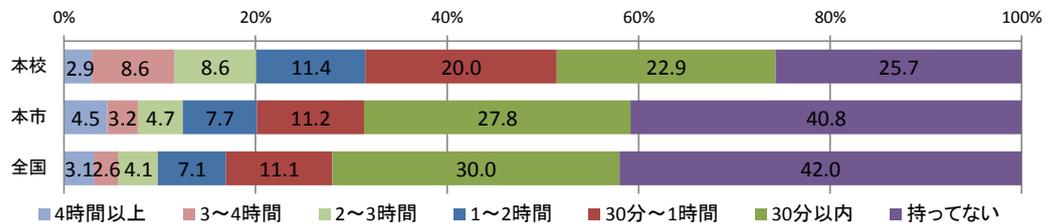
10
普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか。(勉強のためのテレビやビデオ・DVDを見る時間、テレビゲームをする時間は除きます。)



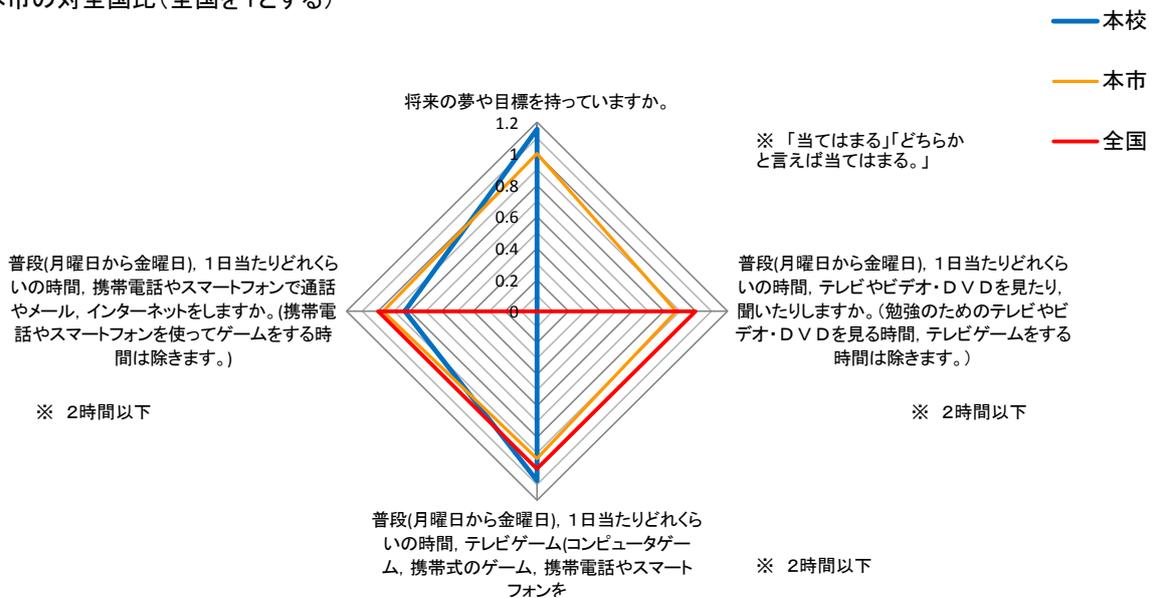
11
普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含みます。)をしますか。



12
普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除きます。)



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果の分析

・将来の夢や希望をしっかりと持っている児童は全国よりも多い。過去3年共に上回っている。  
 ・テレビやゲーム、インターネットは全国と比べるとかなり時間が多い傾向である。学校と家庭が協力して、「ゲームは1日1時間以内！」など児童に意識させていくような声かけを積極的にしていく必要がある。また、本市の掲げる「ケータイ・スマホ夜10時OFF」についても、再度保護者、児童に訴えかける必要がある。

### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組(全校・学年・学級・教科毎の取組)

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

○学校全体で、国語科の「読むこと」単元において、登場人物の心情の変化を細かく読み取る授業場面を増やす。また、「書くこと」単元においても、サンプル文における筆者の考えを読み取る授業場面を増やす。その際、まずノートに自分の考えを書き、それを学級全体で交流させ、考えを深めさせるようにしていく。

○学校全体で、算数科において授業研究を中心として、児童の基礎・基本の定着を図る授業づくりを目指す。「つかむ」「みつける」「ねりあげる」「つかう」「まとめる」段階で手だてを講じるようにし、児童の自ら学ぶ力を高めていく。

○10月中旬に、家庭学習の時間を増やすため目安の時間や学習計画、学習方法についてチャレンジハンドブックを効果的に活用できるような保護者向け資料を作成し、配布する。

○算数科を中心として低学年・高学年を分けて、給食準備時間の補充学級を開始する。校長、教務主任、少人数担当教員を中心として行う。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

○ここ数年、家庭学習の時間が1時間以内の児童が多く、家庭の教育に関する意識が薄い傾向が窺える。学校通信で家庭学習及びネット・スマホ、テレビやゲームの時間の目安を示すようにする。(本市の掲げる「ケータイ・スマホ夜10時OFF」も伝える)本校の家庭学習時間の現状を教員に周知させ、再度、家庭学習の内容(量・質)を共通理解して各学年・学級で宿題に取り組ませる。

○学年に応じて自主学習ノートを活用し、自ら学ぶ力を高めていくようにする。よりよい学びになっているノートを廊下等に掲示し、自主学習に対する意欲を高める。

○家庭学習の計画を立てる際に、家庭学習チャレンジハンドブックを活用する。各学級担任が児童一人一人の家庭学習状況を把握し、実態に応じた助言を児童や家庭に行い、時間の確保や質の向上を目指す。

○家庭学習チャレンジハンドブックの活用については、まず教務主任から全教員に家庭学習の計画を立てる際の活用等について周知する研修会をもち、その後各学年を中心として、実態に応じた活用方法を考案し、児童や保護者に活用させていく。